

---

# 目覚まし時計と自分。

雷雲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

目覚まし時計と自分。

### 【Nコード】

N4369P

### 【作者名】

雷雲

### 【あらすじ】

俺の思い出のヒトカケラ。

俺は深夜、目覚まし時計と暗闇と言う地獄の中で戦うのだった……

俺はある音で目を覚ました。今もその音はこの家に鳴り響いている。

その音は眠れなくなるほどうるさく、そして耳をつんざく。

目覚まし時計だ。

辺りは真っ暗で何も見えない。自分の姿すらまともに見えていない。深夜だろうか。

俺はベッドから転げ落ちた。頭を打ってしまったので後頭部が痛い。

「昨日、部屋を片付けといてよかった……」

目覚まし時計の音は部屋の向こうから聞こえてくる。

誰だ目覚まし時計つけたの。ぶんなぐるぞ。何で俺が暗闇と言っ名の地獄を探検しなきゃならないんだよ。

この時は結構調子に乗っていました。

……目覚まし時計をつけたのが親ではない事を願う。  
この時に親に対する恐怖を思い出しました。

ふらふらと、俺は四つん這いになって手探りで部屋のドアを探す。

一瞬、何かに頭を打ちつけた。俺は打ちつけた場所に手を振って

みる。

ガンッ!!

結構手が痛かったがこの丸み、ドアノブだ。

俺は「扉を開けてもゾンビは出ない」と三回言ってドアを開けた。

（この時、9時にバイオハザードを見ました）

ドアの向こうにゾンビは居なかった。（当たり前）

いびきが聞こえる。父親だろうか。

たしかいびきをかいていたら体がヤバいとか番組でやってたよ  
うな……

俺はあのつんざくような音が左から聞こえるので、壁に頭を打ち  
つけながらどこかの部屋へと入った。

直感的、またはうる覚えでここは母親とまだ幼い妹が寝ている部  
屋だ。

って、母親と妹。よくこの音で起きないな。疲れてたのか？

俺はまた四つん這いで手探りで目覚まし時計を探す。

その時、手が誰かに当たった。

これは……弟二人か。こいつらマザコン？

「グ〜ガ〜グ〜ガ〜」

あれ、いびきかいてたのって……

……オトウトツ!?

まあ、いいか。( いいわけない )

俺はまた手探りで目覚まし時計を探す。

「ギャーーーーー!」

あ、妹泣いた。ギャーとジリリリリでギャリリリリリか。( そんな都合よく合わさるか )

耳痛い。耳痛い。鼓膜破れる。早く帰りたい。( どこへ )

俺は「全然うるさくない」と言い続けながら目覚まし時計を探した。( 自分でもうるさくしてるジャマイカ )

ってか母親これでも起きないのかよ。どんな聴覚なんだ。( 全くだ )

俺は仰向けになり手足を動かした。その時、何か四角い物が一回足に当たった。（一回当たっただけで形を判別できるとは……こいつ、やれる！ 何が）

俺はヘッドスライディングでそこへと向かった。（やる意味あるか？）

偶然腹にその目覚まし時計が当たっただけ。（痛そう……）

一つの音が止んだ。そして妹も泣きやみ、眠り始める。（普通に考えたら凄いような気がしてならない。）

俺は何とか自室に戻り、俺の意識はブラックアウトした。

## （後書き）

これと似たような作品であるジリリリリ！と24歳の男とは無関係です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4369p/>

---

目覚まし時計と自分。

2010年12月12日00時23分発行